

秋田県誕生150年記念

秋田地域

歴史の1コマ

秋田市



中心市街地・広小路

中央をのんびり走る市電が昭和を感じさせます。馬車鉄道時代から75年、“チンチン電車”として市民に親しまれた市電は、昭和40年12月でその役目を終えました。



昭和36年の秋田国体

10月8日、秋田市八橋陸上競技場で行われた開会式では、選手・役員約1万4千人を、3万人あまりの観衆が歓迎。大会は、笑顔と親切、民泊家庭の温かいおもてなしで“まごころ国体”として好評を博しました。



昭和50年代初め頃の秋田駅前の風景

駅に降り立つと、すぐに目にするにぎわいのある光景でした。その後まもなく再開発が進み、整然とした現在の駅前の姿へと生まれ変わります。



寒風山有料道路が開通し、家族連れなどでにぎわう寒風山

(男鹿市 昭和41～43年)

男鹿市



船川港木材造成工業用地起工式の様子

船川港の一部を埋め立て、木材コンビナート用地が造り上げられた。(男鹿市 昭和43年)

秋田地域

歴史の1コマ

潟上市

八郎湖で水遊びをする子どもたちの様子

湖は遠浅のため、当時は漁師たちが使う網を干していました。また、子どもたちにとっては格好の遊び場であったため、魚の手づかみやシジミ捕りをして遊んでいました。(天王町 昭和30年頃)



一般国道7号線昭和飯田川バイパスの開通を祝う様子

国道の開通によって、昭和町・飯田川町の町中を通ることなく、秋田市へ行くことができるようになりました。(昭和町 昭和55年)

五城目町



戦前の五城目朝市の様子

上町は川原町から今町、下町は古川町の長栄堂前から築地町まで、現在の倍の長さの路上が使用され、その区間の両側には野菜類から魚類のほかに炭や米、薪や柴木、大工の内職で作られた鋏の柄やまな板、塵取、鍋蓋といったものが並んだ。(五城目町 大正元年頃)

秋田県誕生 **150** 年記念

秋田地域

歴史の1コマ



旧一日市町で行われた一日市盆踊りの様子

仮装をした人々が、太鼓と笛の音色に合わせて輪になって踊っています。一日市盆踊りは毎年8月18日～20日に行われ、秋田県指定無形民俗文化財に指定されています。(旧一日市町 昭和17年)



氷上漁業・氷上ワカサギ釣りの様子

氷が張った八郎湖の上で、地元の漁師が氷上漁業を行ったり、地域の人々が氷上ワカサギ釣りを楽しんでいます。(八郎湖 平成6年)



日本国花苑記念植樹祭

昭和47年4月日本国花苑にて行われた記念植樹祭の様子。現在、200種2,000本あまりの桜が咲き誇る国内でも類を見ない公園となりましたが、この時の植樹では26種の桜が植えられました。



今戸願人踊り

井川町今戸地区に伝わる「願人踊り」の様子。隣接する八郎潟町との縁の深さと歴史を今に伝えます。(昭和62年)



八郎潟干拓工事で、
全長52kmの堤防が閉じられる瞬間

この後、南北排水機場の排水スイッチが押され、排水が始まりました。(昭和38年)



大潟村ソーラースポーツラインが完成

八郎潟干拓記念伝競走大会、ワールド・ソーラーカー・ラリーなど、現在も毎年様々なイベントが行われています。(平成6年)